

日本ヒューレット・パッカードにおける 人事制度と情報セキュリティへの取り組みについて

大武 雅直

日本ヒューレット・パッカード株式会社

概要：日本ヒューレット・パッカード株式会社のユニークな人事制度と、特に新卒採用活動に関連した情報セキュリティへの取り組みについて紹介する。

キーワード：人事制度、情報セキュリティ

1. 柔軟な働き方

Hewlett-Packard が創業以来大切にしている価値観として社員を信頼と尊敬をし、社員には妥協なき誠実さを求めるというものがある。この二つの価値観は当社の人事制度、情報セキュリティに大いに関連する部分である。

当社では、働きやすさの追求について、強く推し進めている（図1）。柔軟な勤務体制、仕事と育児・介護との両立支援、環境整備をすることで、企業ブランドを高め、この会社で働きたいと入社を希望する人が増えると考えている。



図1 働きやすさの追求

特に、柔軟な勤務体制として、フリーアドレス制度と Flex Work Place 制度がある。フリーアドレス制とは、決まった自分の席がないことであり、朝、出社したら、自分の座りたいところに座ることができる。例えば、プレゼンの資料を集中して作りたい時には、カフェテリアで仕事をするという働き方もできる。そして、Flex Work Place 制度とは、週2回月8回まで自宅などオフィス以外の場所で勤務をすることができる制度である。オフィス以外の環境でも、会社から配備されたPCを利用して、会社にいるときと同様の環境で仕事をするることができる。この柔軟な働き方を実現させるために、セキュリティに配

慮した IT 環境を整えている。

これらの取り組みにより、勤務スタイルが柔軟な企業ランキング上位にランクしていただくことも出来た。

2. 新卒採用について

当社では、新卒採用を毎年活発に行っており、多くの学生がエントリーする。それに伴い、非常に多くの個人情報扱うことになる。基本的には、新卒採用の場合はリクナビからの応募が多いので、リクナビのプラットフォーム上で管理をするか、当社のオンラインのシステム上で管理するようになっている。そして、そのシステムにアクセスできるのは、ごく一部の限られた人間のみにしている。

以前は、新卒採用の面接の際に選考書類を印刷して各面接官に配っていたが、その書類の扱いによって情報漏えいのリスクがあったため、ペーパーレス化を進めた。すべての選考書類とフィードバックをオンラインのシステム上で管理するようにした。

面接中も、面接官がシステムにログインして、選考資料も印刷せずにシステム上で閲覧し、フィードバックも入力している。それにより、情報セキュリティのリスクの軽減だけではなく、業務の効率の改善にもつながった。

当社は IT 企業のため、IT リテラシーや、IT の技術の高い学生を多く採用するのではないかと思われがちだが、実際には、常識や人間力などの本質的なところをみて採用をしている。つまり、このような力があれば、与えられた情報を有効に活用して、IT リテラシーを高めていく素養があると考えている。

3. 情報セキュリティへの取り組み

当社では、各部門からマネジャークラスの代表者を選出し、情報セキュリティに関する

情報をまとめたポータルサイトの運営や研修プログラムの案内を行い、各社員への情報の展開を行っている。このポータルサイトには、セキュリティに関する必要な情報が掲載されており、基本的に社員が自らアクセスして学んでいくことが推奨されている。

セキュリティの具体的な取組みをいくつか紹介したい。SNSに関しては、ソーシャルネットワークのメディアガイダンスで、明確な指針を設けている。例えば、オフィス内の写真を撮影してフェイスブック等に投稿することは、事前の申請が必要になる。また、本人にそのつもりがなくても、自分が使っているPCについてつぶやいただけでも、ステルスマーケティングと誤解を与えてしまう可能性もあるので、そのような言動は慎むように等、具体的な例を挙げてガイダンスは明文化されている。SNSで重要なことは、社員一人一人が当社のブランドアンバサダーであるという認識を持つことを基本の方針として掲げている。

Mobileについても、マニュアルを作成している。平常時は必ず画面のロックとパスワードをかけることや、万が一紛失をしてしまった時には、即リモートワイプをすることが決められている。万が一、端末を紛失してしまった場合は、休日、平日を問わず、2時間以内に必ず上司に報告をして判断を仰がなければならない。上司も、マニュアルを必ず読むことや事故が起きた時はすぐに対応することが義務付けられている。

当社はIT企業のため、外からの攻撃やウイルスに対しての防衛については、高い技術を持って対応できていると自負している。しかし、それだけではセキュリティについて万全とはいえない。どうしても防ぎきれないのが、人によるミスだ。例えば、メールの誤送信や、記憶媒体を置き忘れることで発生する情報漏えいは、社員一人一人の意識を向上させなければ防ぐことができない。そのため、クリーンデスクチェックシートや、離席時のPCロックやPCへの施錠等の啓蒙活動を日々行っている。メール誤送信を防止するために遅延送信設定や、外部送信の際にはポップアップで送信先や添付ファイルの再確認をさせている。また、USBなどの記憶デバイスは許可を得ている社員しか使用することができない。

このような社員のセキュリティ意識向上のために、定期的にトレーニングを行っている。日本独自に行うものもあるが、本社から提供

されるトレーニングを受けないと、業務に必要なシステムにログインができなくなってしまうこともある。

外資系企業ならではのというセキュリティ対策は特にならないが、各自がセキュリティに対する意識を持ち、われわれ社員の自主性に委ねていることが、当社の特徴であると考えている。ルールで縛り制限することも情報セキュリティを守る上で重要であろう。しかしながら、われわれのセキュリティ教育も根源までたどると創業者が抱いていた精神へ立ち返る。社員を信頼し、尊敬する。社員は妥協なき誠実さを持って取り組んでいき、会社はそれをサポートする。そういった信念のもとに成り立っていると言えるだろう。